

本 会 記 事

日本植物病理学会 令和3年度第2回評議員会議事録

日 時：2021年11月27日(土) 13:00~16:30

開催場所：ZOOM 会議

出席者：

青木孝之, 秋光和田, 有江 力, 一瀬勇規, 岩井 久, 宇垣正志, 大島一里, 大島研郎, 大藤泰雄, 景山幸二, 金山晋治, 兼松聡子, 川北一人, 菊武和彦, 北 宜裕, 窪田昌春, 久保康之, 小林括平, 近藤則夫, 澤田宏之, 塩見 寛, 鈴木信弘, 高垣真喜一, 高橋英樹, 高野義孝, 瀧川雄一, 竹下 稔, 柘植尚志, 津田新哉, 東條元昭, 中島 隆, 中島千晴, 夏秋啓子, 夏秋知英, 濱本 宏, 曳地康史, 平塚和之, 古屋成人, 堀田治邦, 眞岡哲夫, 三瀬和之, 守川俊幸, 吉川信幸, 吉田重信, 渡辺京子, 渡邊 健, 土佐幸雄会長, 増田 税副会長, 山次康幸庶務幹事長

以上評議員 49 名 (定員 53 名, 欠席者 4 名: 児玉基一朗, 佐野輝男, 藤 晋一, 中島雅巳)

幹事: 宮田伸一副庶務幹事長, キムオッキョン会計幹事, 晝間 敬副会計幹事, 川部眞登庶務幹事

I. 審議事項

1. 令和4年度功績者の推薦について (久保功績者推薦委員長)

- 名誉会員に大木理氏および難波成任氏が推薦されることが報告され, 承認可決された。
- 永年会員に太田光輝氏, 金子俊彦氏, 牧野孝宏氏, 尾崎政春氏が推薦されることが報告され, 承認可決された。

2. 令和4年度論文賞の選定について (一瀬編集委員長)

- 令和4年度論文賞として以下の2報が選定されたことが報告され, 承認可決された (筆頭著者 ABC 順)

Hajime Akamatsu, Naoya Fujii, Takaaki Saito, Akira Sayama, Hideki Matsuda, Masaya Kato, Rui Kowada, Yukiko Yasuta, Yuji Igarashi, Hideo Komori, Katsuo Tanji, Tomohisa Kuroda, Yoichi Fujita, Makoto Hattori, Osamu Kawakami, Takeshi Hori, Genki Mimuro, Toshiyuki Morikawa, Nobuaki Murasaki, Yumi Aoki, Junko Sekihara, Yukihide Iyama, Hitoshi Nakada, Tadayasu Iwata, Toshinori Kichishima, Tomoka Ebitani, Fumiko Numada, Hitoshi Manta, Hirokazu Nakajima, Toru Yamashita, Kaoru Miyahara, Goro Toyoshima, Kazuyoshi Yamada, Ryo Yamamoto, Sunao Ochi. Factors affecting red crown rot caused by *Calonectria*

ilicicola in soybean cultivation. Journal of General Plant Pathology 86 (5) 363–375 (2020)

Yukari Okano, Kensaku Maejima, Tetsuya Yoshida, Shuko Nishida, Ryosuke Tokuda, Masanobu Nishikawa, Shigetou Namba, Yasuyuki Yamaji. Interfamily transfer of *Arabidopsis* lectin-mediated antiviral gene confers resistance to pepino mosaic virus in tomato. Journal of General Plant Pathology 86 (4) 274–282 (2020)

3. 令和4年度学会賞, 学術奨励賞の選定について (土佐賞選考委員長)

- 委員会から選考経過が報告され, 学会賞に3名, 学術奨励賞に3名が選出されることが報告され, 承認可決された。選考結果は以下の通りであった (氏名の ABC 順)。

学会賞:

青木孝之氏「フザリウム属菌の分類学的研究」

守川俊幸氏「難防除ウイルス病の生態および防除に関する研究」

高野義孝氏「炭疽病菌と植物の相互作用に関する分子遺伝学的研究」

学術奨励賞:

藤本岳人氏「ジャガイモ黒あし病の発生要因解明と高度診断技術の開発」

井上喜博氏「イネ科植物いもち病菌・炭疽病菌の寄生性分化・ホストジャンプ機構の解析」

岡野夕香里氏「植物ウイルスに対する多重抵抗性付与に向けた研究」

4. 令和5年度大会開催地について (土佐会長)

- 令和5年度の本会大会を東京農業大学 (東京都あるいは神奈川県) において開催することが提案され, 承認可決された。

5. 令和4年度 事業計画書および収支予算書について (山次庶務幹事長, キム会計幹事, 晝間副会計幹事)

- 令和4年度の事業計画と収支予算案について報告され, 承認された。

6. 令和4年度 大会準備状況について (近藤大会委員長)

- 令和4年度大会をオンラインで行う方針であり, スケジュールと準備状況について説明され, 承認された。

7. 委員の交代について (宮田副庶務幹事長)

- 学会ニュース編集委員長の交代について提案され, 承認可決された。

8. 殺菌剤耐性菌研究会の活動経費不足金補てん申請につ

- いて（山次庶務幹事長）
- ・同研究会 HP の改ざんに伴う活動経費不足金補てん申請について説明され、承認された。
9. 学会誌オンライン化とそれに伴う会費、投稿規定の変更について（土佐会長）
- ・学会誌のオンライン化促進、会費の低減ならびに投稿料無料化を目的として、学会誌の配布を「冊子体+オンライン」「オンラインのみ」の選択制とすることで「オンラインのみ」を選択した会員の会費を低減する案について、同案に関する会員向けアンケートの結果、冊子体削減、会費低減ならびに投稿料無料化が予定通り実施できる見込みであることが説明され、承認された。
 - ・外国会員についてもオンライン購読のみとし、会費を低減する案が説明され、承認された。
10. 副会長・監事候補者選挙のオンライン化について（山次庶務幹事長）
- ・副会長・監事候補者選挙をオンライン化する方針について説明され、承認された。
11. 学術奨励賞授賞対象者の年齢制限について（兼松男女共同参画推進委員長）
- ・将来問題検討委員会より提案された、学術奨励賞授賞対象者の年齢制限に産休・育休期間を考慮する案について説明され、承認された。
12. 評議員会のあり方について（土佐会長）
- ・令和4年度大会にともなう評議員会を総会後に行うこと、令和4年度秋の評議員会をオンラインで行うことが提案され、承認可決された。
13. 日本農学賞候補者の推薦について（土佐会長）
- ・これまで日本農学賞候補者は日本植物病理学会、応用動物昆虫学会、農薬学会の輪番で推薦してきたが、今後はそれぞれの学会から毎年推薦する方針となった経緯が説明され、承認された。
14. 主催・共催・後援に関する細則について（土佐会長）
- ・本学会が主催・共催・後援を実施するにあたっての細則について説明され、承認された。認可と報告の方法・書式等について引き続き検討することとなった。
15. 会計マニュアルの変更について（キム会計幹事）
- ・本学会会計処理に関するマニュアルならびに大会・研究会等の活動経費取り扱いに関する申し合わせの変更案が説明され、承認された。
16. 基金の積み立てについて（キム会計幹事）
- ・今期繰越収支差額を基金に積み立てる案が説明され、承認された。
- II. 報告事項
1. 令和4年度副会長候補者・令和4・5年度監事候補者選出選挙ならびに令和4・5年度評議員選挙の結果について（北選挙管理委員長）
 - ・令和4年度副会長候補者に平塚 和之氏が選出されたことが報告された。
 - ・令和4・5年度監事候補者に濱本 宏氏、大島 研郎氏、渡辺 京子氏が選出されたことが報告された。
 - ・令和4・5年度評議員選挙の結果が報告された。
 2. 令和3年度日本農学進歩賞の受賞について（山次庶務幹事長）
 - ・本学会が推薦した峯 彰氏の受賞が決定したことが報告された。
 - ・授賞式、受賞講演が11月26日に東京大学農学部弥生講堂で実施されたことが報告された。
 3. 令和3年度大会開催報告（中島前大会委員長、キム会計幹事）
 - ・令和3年度大会はオンラインで開催されたことが報告された。
 4. 令和3年度部会・研究会・談話会開催状況（山次庶務幹事長）
 - ・一部の研究会の開催が中止され、それ以外の部会・研究会等はオンラインで開催されたことが報告された。
 5. 編集委員会報告（一瀬編集委員長）
 - ・2021年1～10月受付分の投稿原稿数として、英文誌215本（受理率15.50%）、和文誌12本（同100%）であることが報告された。
 - ・2020年のJGPPのImpact Factorが1.449に上昇したことが報告された。
 6. 病名委員会報告（窪田病名委員長）
 - ・病名目録の編集状況、病名の審査状況、学会HPにおける公開について説明された。
 - ・農研機構遺伝資源研究センターとの連携案について説明され、本会と農研機構の双方で引き続き検討していくこととなった。
 7. 将来問題検討委員会報告（土佐将来問題検討委員長）
 - ・会員数減少への対応、賞選考関連、ダイバーシティ対応、学会誌オンライン化などについての検討状況が説明された。
 - ・大会のあり方、学会誌オープンアクセス化などについて新たに検討する予定であることが説明された。
 8. 日本微生物学連盟報告（山次運営委員）
 - ・2021年10月8日に日本微生物学連盟理事会が開催されたことが説明され、野本賞への積極的な推薦・応募につ

- いて依頼された。
9. 日本農学会報告（山次庶務幹事長）
- 2021年第2回日本農学会運営委員会が9月10日にウェブ会議で開催され、日本農学賞の受賞候補者の推薦について報告された。
 - 読売農学賞について、賞自体は存続するものの、令和6年度から賞金が廃止され、それまでの間経過措置として賞金が半額となることが説明された。
10. 日本植物保護科学連合報告（山次庶務幹事長）
- 12月6日に「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献」のテーマでオンライン開催され、本学会からは能年義輝氏が講演することが報告された。
 - 植物保護科学分野の重要性をアピールするため、日本学術会議に「報告」として提出する方針であること、その原案作成委員として本学会から眞岡哲夫氏を推薦したことが報告された。
11. 国際化対応委員会報告（夏秋国際化対応委員長）
- オーストラリア植物病理学会との交流を廃止する方向で検討していること、国際発表助成について検討していることなどが報告された。
12. 3学会会長懇談会報告（土佐会長）
- 農学賞候補者の推薦方法について、三学会が協力する前提のもと、それぞれ候補者を出す方向性で検討することとなり、各学会の理事会等で正式に方向性を定めた上で早ければ来年度から実施する方針であることが説明された。
13. 農研機構植物防疫研究部門の設立について（中島評議員）
- 農研機構に植物防疫研究部門が設けられたことが説明され、組織構成や4つ存在する研究領域とそれぞれの課題について説明された。
14. 日本植物防疫協会との業務委託契約更新について（山次庶務幹事長）
- 今年度と同様に業務委託契約の更新を行ったことが報告された。
15. JGPP出版契約の更新について（キム会計幹事）
- 2022年以降の契約について、シュプリンガーシンガポール社との契約となるものの、日本語対応であること、購読費用が安価になること、二次利用権がシュプリンガー社保有となることが説明された。
16. 規程・細則の改訂方針について（土佐会長）
- 今年度行った様々な改革について規定・細則の改訂が必要になることが説明され、細則については令和4年度第1回評議員会、規定については令和4年度第1回評議員会、同理事会を経て総会での決議を目指すことが説明された。

17. その他
- 学術振興会賞・農学進歩賞候補者の選定スケジュールを例年より早めることが報告された。
 - オンライン会議アカウントの取得について報告された。
 - 総会開催に向けたスケジュールについて説明され、大会がオンラインになったため来年の総会もオンラインとなること、昨年と同様に議決権行使書等による総会開催を行う予定であることが説明された。
 - 今後対面開催を行う場合の基準について議論され、基本的には主催地で判断することとするが事前に幹事会に相談して欲しい旨の意見が出された。

一般社団法人日本植物病理学会令和3年度第2回理事会議事録

日時：令和3年11月27日（日）16:35～17:05

開催方法：オンライン開催（Zoomミーティング）

出席者

理事：土佐幸雄会長（代表理事）、増田 税副会長（代表理事）

高橋英樹、夏秋知英、中島 隆、有江 力、平塚和之、景山幸二、高野義孝、一瀬勇規、竹下 稔 以上理事11名（現員11名、欠席者0名）

監事：濱本 宏、渡辺京子、夏秋啓子 以上監事3名（現員3名、欠席者0名）

オブザーバー：山次康幸、宮田伸一、キム オッキョン、晝間 敬、川部眞登（幹事5名）

審議事項

1. 令和4年度事業計画書および収支予算書について
2. 令和3年度第2回評議員会の審議事項の確認

報告事項

1. 代表理事の職務執行状況の報告
2. 令和2年度第1回理事会議事録の確認
3. その他

議事経過の概要

11月27日、オンライン会議で開催された令和3年度第2回評議員会の終了後、引き続き評議員を兼任する理事11名、監事3名が参加していることを確認した。

定款第32条により、土佐幸雄会長が議長となった。理事および監事の出席数から、定款33条の規定を満たしており、本会の成立を報告した。続けて議長は、本理事会はテレビ会議システム（オンライン会議システム）を用いて

開催することを説明し、かつ出席者の映像及び音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な審議を行うことができる状態となっていることが確認された。

1. 第1号議案 令和4年度事業計画書および収支予算書について

議長より、資料に基づき、令和4年度事業計画書および収支予算書の説明がなされた。議長の指示により、オブザーバーの山次庶務幹事長より補足説明がなされた。審議の中で日付等の修正を行ったうえで、議長が本件の承認を求めたところ、全員異議なく、本件は承認可決された。

2. 第2号議案 令和3年度第2回評議員会の審議事項の確認

議長より、同日、本会に先立って開催された令和3年度第2回評議員会において、審議承認された以下の5件、

- 1) 令和4年度大会のオンライン化について
 - 2) 殺菌剤耐性菌研究会のHP改ざんに伴う活動経費不足金補てん申請について
 - 3) 日本農学賞候補者の推薦について
 - 4) 会計マニュアルの変更について
 - 5) 令和3年度大会の会計報告について
- について説明がなされた。議長より、理事会での承認を求めたところ、全員異議なく、5件は承認可決された。

3. 報告事項

議長より職務執行状況の報告として、令和4年度の事業計画に沿って遅滞なく事業計画を進めていることが説明された。また、議長の指示により、山次庶務幹事長より令和3年度第1回理事会議事録の報告が行われた。

以上をもって、終始異常なく議事が終了したので、議長は閉会を宣言し、17:05 散会した。

日本植物病理学会 令和3年度第2回評議員会継続審議議事録

日時：令和3年12月15日（水）18:00 議題案送信

令和3年12月20日（月）24:00 意見聴取締め切り

開催方法：メール審議

幹事：土佐幸雄会長、増田 税副会長、山次康幸庶務幹事長、宮田伸一副庶務幹事長、キムオッキョン会計幹事、晝間 敬副会計幹事、川部眞登庶務幹事、藤川貴史庶務幹事

令和3年度第2回評議員会継続審議をメール審議にて開催した。令和3年度第2回評議員会・理事会で承認された令

和4年度事業計画書ならびに収支予算書について、令和4年度大会のオンライン化等による修正が複数生じたことから、12月15日、土佐会長名で評議員宛にメール審議の依頼文書を送付し、令和4年度事業計画書および収支予算書の修正案について審議した。12月20日に意見聴取を締め切り、一部修正の後承認された。

日本植物病理学会 令和3年度臨時理事会（メール審議）議事録

日時：令和3年12月22日（水）14:00 議題案送信

令和3年12月27日（月）12:00 意見聴取締め切り

開催方法：メール審議

出席（回答）者

理事：土佐幸雄会長、増田税副会長、

高橋英樹、夏秋知英、中島 隆、有江 力、平塚和之、景山幸二、高野義孝、一瀬勇規、竹下 稔
以上理事11名（現員11名、欠席者0名：）

監事：濱本 宏、夏秋啓子、渡辺京子 以上監事3名（現員3名、欠席者0名）

審議事項

第1号議案 令和4年度事業計画書ならびに収支予算書修正案について

12月22日、土佐会長名で理事・監事宛にメール審議の依頼文書を送付し、令和4年度事業計画書および収支予算書修正案について審議した。12月27日に意見聴取を締め切り、全会一致で承認可決された。

令和4年度事業計画書ならびに収支予算書

1. 行事案

- (1) 学会報（英文誌第88巻1～6号、和文誌第88巻1～4号）を発行する。
- (2) 大会、部会、談話会、研究会等を開催する。
 - 1) 大会：令和4年3月27～29日 オンライン開催（北海道大学）
 - 2) 北海道部会：令和4年10月13～14日 かでる2・7（札幌市）
 - 3) 東北部会：令和4年10月頃 福島県福島市内を予定
 - 4) 関東部会：令和4年9月15～16日 玉川大学（東京都）
 - 5) 関西部会：令和4年9月21～22日 高知大学（高知市）
 - 6) 九州部会：令和4年11月 長崎県内を予定
 - 7) 第31回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム：令和4年3月30日頃 開催場所未定
 - 8) 第21回植物病原菌類談話会：令和4年9月予定 オ

- ンライン開催
- 9) 第16回バイオコントロール研究会：令和4年3月
オンライン開催
- 10) 第56回植物感染生理談話会：令和4年9月5～7日
東北大学（仙台市）
- 11) 第14回植物病害診断研究会：令和4年3月 開催場
所未定
- 12) EBC 研究会ワークショップ2022：令和4年9月頃
開催場所未定
- 13) 第16回植物病害診断教育プログラム：令和4年8月
22日～26日 秋田県立大学
- 14) 第30回土壌伝染病談話会：令和4年9月30日 千葉
大学園芸学部（松戸市）
- 15) 第29回植物細菌病談話会：令和4年秋 開催場所未定
- 16) 第14回植物ウイルス病研究会：令和4年3月30日
オンライン開催
- (3) 定時総会：令和4年3月令和3年度事業報告・決算承
認および令和4年度理事選任
理事会：令和4年度第1回（令和4年2月）定時総
会議案審議
- 令和4年度第2回（令和4年3月）代表理
事選任
令和4年度第3回（令和4年11月）令和
5年度事業計画・予算承認
評議員会：令和4年度第1回（令和4年2月）定時総
会議案審議
令和4年度第2回（令和4年3月）令和4
年度委員等選任
令和4年度第3回（令和4年11月）令和
5年度事業計画・予算承認
- (4) 学会賞，学術奨励賞，論文賞等の選考を行う。
- (5) 大会において学生優秀発表賞の選考を行う。
- (6) 名誉会員，永年会員の推挙を行う。
- (7) 令和5年度次期副会長候補者の選出を行う。
- (8) 令和5年度理事候補者（次期会長候補者，次期副会長
候補者）を総会へ推薦し，次期会長候補者，次期副会
長候補者として理事会への推薦を行う。
- (9) 日本農学賞，日本農学進歩賞，日本学術振興会賞等の
受賞候補者の推薦を行う。
- (10) その他

2. 一般会計収支予算書（令和4年1月1日から令和4年12月31日まで）

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	19,869,000	19,984,000	△ 115,000
正会員会費収入	11,900,000	11,920,000	△ 20,000
学生会員収入	1,116,000	1,170,000	△ 54,000
学部生会員収入	23,000	21,000	2,000
外国会員収入	160,000	93,000	67,000
準会員費収入	1,470,000	1,530,000	△ 60,000
賛助会員	5,200,000	5,250,000	△ 50,000
会報刊行収入	6,060,000	7,010,000	△ 950,000
頒布収入	2,440,000	2,400,000	40,000
広告料収入	120,000	110,000	10,000
著者負担金収入	3,500,000	4,500,000	△ 1,000,000
事業収入	11,911,000	13,968,000	△ 2,057,000
大会収入	6,930,000	8,010,000	△ 1,080,000
部会収入	1,511,000	2,710,000	△ 1,199,000
談話会・研究会収入	2,740,000	2,518,000	222,000
教育プログラム収入	730,000	730,000	0
雑収入	252,000	74,000	178,000
預金利息収入	2,000	4,000	△ 2,000
雑収入	250,000	70,000	180,000
事業活動収入計	38,092,000	41,036,000	△ 2,944,000
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	15,240,000	15,400,000	△ 160,000
印刷製本費支出	11,160,000	11,400,000	△ 240,000
編集費支出	4,080,000	4,000,000	80,000
事業支出	13,100,000	16,100,000	△ 3,000,000
大会支出	6,930,000	9,010,000	△ 2,080,000
部会支出	2,140,000	3,230,000	△ 1,090,000
談話会・研究会支出	3,170,000	3,000,000	170,000
教育プログラム支出	860,000	860,000	0
学術奨励関係費支出	730,000	755,000	△ 25,000
国際学術交流費支出	300,000	150,000	150,000
情報電子化費支出	810,000	2,050,000	△ 1,240,000
HP 充実費支出	430,000	1,450,000	△ 1,020,000
情報維持費支出	380,000	600,000	△ 220,000
男女共同参画支援費支出	0	100,000	△ 100,000

負担金支出	640,000	690,000	△ 50,000
男女共同参画学協会連絡会	10,000	10,000	0
JABEE 負担支出	50,000	50,000	0
農学会負担支出	120,000	130,000	△ 10,000
植物保護科学連合負担金支出	50,000	50,000	0
日本微生物学連盟負担金支出	100,000	100,000	0
国際植物保護学会負担金支出	50,000	50,000	0
ISPP 負担金支出	260,000	300,000	△ 40,000
事業運営費支出	1,720,000	3,120,000	△ 1,400,000
会議費支出	400,000	800,000	△ 400,000
旅費交通費支出	750,000	1,750,000	△ 1,000,000
各種委員会関係費支出	570,000	570,000	0
管理費支出	5,129,000	4,755,000	374,000
通信運搬費支出	400,000	300,000	100,000
消耗品費支出	150,000	125,000	25,000
事務管理費支出	3,190,000	3,190,000	0
印刷費支出	99,000	100,000	△ 1,000
外部監査管理費支出	300,000	300,000	0
雑支出	990,000	740,000	250,000
事業活動支出計	37,519,000	43,120,000	△ 5,601,000
事業活動収支差額	573,000	△ 2,084,000	2,657,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入	0	0	0
学術事業安定化基金	0	0	0
学術奨励基金	0	0	0
国際学術交流基金	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	5,000,000	0	5,000,000
学術事業安定化基金	5,000,000	0	5,000,000
学術奨励基金	0	0	0
国際学術交流基金	0	0	0
投資活動支出計	5,000,000	0	5,000,000
投資活動収支差額	△ 5,000,000	0	△ 5,000,000
III 財務活動収支の部			
当期収支差額	△ 4,427,000	△ 2,084,000	△ 2,343,000
前期繰越収支差額	14683372	13,263,947	1,419,425
次期繰越収支差額	10,256,372	11,179,947	△ 923,575

3. 学会報編集計画案

(1) 編集機関

学会誌第 88 巻の編集は、英文誌 (Journal of General Plant Pathology), 和文誌 (日本植物病理学会報 Japanese Journal of Phytopathology) とともに下記のように東北大学にて行う。

編集事務局：東北大学大学院農学研究科

編集委員長：高橋英樹 (東北大学)

編集副委員長：長谷 修 (山形大学)

編集幹事長：宮下脩平 (東北大学)

印刷：英文誌 シェプリング・ジャパン (株)
和文誌 中西印刷 (株)

発行日：英文誌 1号1月, 2号3月, 3号5月,
4号7月, 5号9月, 6号11月
和文誌 1号2月, 2号5月, 3号8月,
4号11月

(2) 投稿要領

英文誌については、ウェブサイト <https://www.editorialmanager.com/jgpp/> にアクセスして投稿すること。

和文誌原稿は、投稿規定・細則に従って作成し、本文および表・図の電子ファイル、必要事項を記入した和文投稿票ファイル*を付して、編集委員会 (jgpp-jjp@grp.tohoku.ac.jp) あてに電子メールで送付すること。

(*投稿票ファイルは http://www.ppsj.org/journal-submission_procedure.html よりダウンロードすること。)

2021 年度第 3 回日本農学会運営委員会議事録

日時：2021 年 12 月 6 日 (月) 15 時～15 時 35 分

場所：WEB 会議 (Zoom) 会議

出席者：

西澤直子会長、大政謙次副会長、大山卓爾監事、與語靖洋監事、松元 哲 (園芸)、矢部和弘 (シス農)、松下範久 (樹木医)、中村英光 (植調/農薬)、龍原 哲 (森計)、高橋輝昌 (森立)、宮部和幸 (地域経)、岩田洋佳 (育種)、伏信進矢 (応糖)、大井田寛 (応動昆)、矢沢勇樹 (海水)、飯森文平 (国地開)、田川公太郎 (砂丘 (代))、青木直大 (作物)、鈴木雅京 (蚕糸)、春原由香里 (雑草)、中川貴之 (獣医)、山次康幸 (植病)、玉井幸治 (森林)、渡邊壮一 (水産)、塩出大輔 (水工)、安永円理子 (生環)、齋藤勝晴 (草地)、山本清龍 (造園)、山内啓太郎 (畜産)、渡邊 学 (動遺育)、大塚重人 (土肥)、宍戸雅宏 (土微)、上吉原裕亮 (熱農)、濱崎孝弘 (気象)、松本浩一 (経営)、杉田直樹 (農経)、松田 幹 (農化)、安達俊輔 (農作)、田中 智 (繁殖)、中谷朋昭 (フード)、久保寺秀夫 (ペドロ)、恒次祐子 (木材)、五月女格 (食料工)、荒木徹

也 (農施)、石神靖弘 (農情)、吉田修一郎 (農村工)、服部俊宏 (農計 (代))、杉野弘明 (復興)、興梠克久 (林経)、黒住圭子 (事務担当)

欠席者：

大杉 立副会長、堀田和彦 (実農)、土肥哲也 (生態)、太田能之 (家禽)、飯島健太郎 (芝草)、青木謙治 (木加工)、小口広太 (有機)、落合 陽 (木質)

議長：西澤会長

進行：渡邊庶務担当常任委員

議事：

- 2021 年度第 2 回日本農学会運営委員会議事録 (案) の承認について
- 2021 年度事業報告 (案)
- 2021 年度収支決算報告 (案)
- 2022 年度事業計画 (案)
 - シンポジウムテーマ・話題提供募集について
- 2022 年度収支予算計画 (案)
- 2022 年度総会および日本農学会賞選考会について
- 役員選挙にともなう役員候補者推薦について
- 2022 年度会員 (学協会代表者)・運営委員・常任委員 および 2025 年からの新割当て表
- 2022 年度日本農学会賞受賞候補業績の推薦学会発表順の決定
- その他
 - 新規入会学協会について
 - 卓越研究成果公開事業の終了について
 - 新型コロナウイルス感染症の学協会活動への影響に関するアンケート

議題に先立って西澤会長より挨拶があった。

議事 1. 2021 年度第 2 回日本農学会運営委員会議事録 (案) の承認について

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 2. 2021 年度事業報告 (案) について

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。シンポジウムについては齋藤企画担当常任委員から資料に基づき報告があった。

議事 3. 2021 年度収支決算報告 (案) について

宍戸会計担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 4. 2022 年度事業計画 (案) について

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき、第 93 回日本農学会大会の開催、2022 年度日本農学会シンポジウムの開催、2021 年度日本農学会シンポジウム講演要旨の公開、

農学会 2022 年第 21 回日本農学進歩賞の共催、各委員会の開催、その他関連シンポジウムへの後援について説明があった。

(1) シンポジウムテーマ・話題提供募集について

玉井企画担当常任委員よりシンポジウムの実施計画について資料に基づき説明があった。タイトルは「カーボンニュートラルの達成に向けた農学研究」とすることが理事会で決定され、今後、話題提供を加盟学協会へ依頼することになった旨報告があった。また、女性の研究者（講演者）を積極的に推薦いただくようお願いがあった。

議事 5. 2020 年度収支予算計画（案）について

宍戸会計担当常任委員より資料に基づき説明があった。また、2022 年度会員数、分担金については渡邊庶務担当常任委員から資料に基づき説明があった。

議事 6. 2022 年度社員総会および日本農学賞選考会について

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり、今回も昨年同様オンラインで開催することになった旨報告があった。

議事 7. 役員選挙にともなう役員候補者推薦について

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり推薦依頼のお願いがあった。

議事 8. 2022 年度会員（学協会代表者）・運営委員・常任委員および 2025 年からの新割当て表

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき、会員、運営委員および 2021 年度の常任委員担当学会について報告があった。また、2025 年度からの常任委員割当て表について、前回は会員数 1,200 名以上とそれ未満に分けたが、2025 年度からは会員数 1,000 名以上とそれ未満に分けることになった旨説明された。

議事 9. 2022 年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表

順の決定について

渡邊庶務担当常任委員よりあみだくじで行うことの説明があり、岩田庶務担当常任委員の進行により抽選が進められた。厳正な抽選により以下のように推薦学会の発表順が決定された。

発表順

1. (一社) 日本応用糖質科学会
2. (公社) 農業農村工学会
3. (一社) 日本雑草学会
4. 農村計画学会
5. (一社) 日本育種学会
6. 日本農薬学会
7. (公社) 日本畜産学会
8. (公社) 日本水産学会
9. (一社) 日本土壌肥料学会
10. (公社) 日本農芸化学会
11. (一社) 日本森林学会
10. その他
- 1) 新規入会学協会について

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき「公益社団法人日本木材保存協会」からの新規入会の申込があり、理事会で、次回の総会で審議することになった旨報告があった。

2) 卓越研究成果公開事業の終了について

渡邊庶務担当常任委員より資料に基づき、日本学術振興会（の）卓越研究成果公開事業が令和 5 年 3 月末をもって終了することが報告された。

3) 新型コロナウイルス感染症の学協会活動への影響に関するアンケート

齊藤企画担当常任委員より資料に基づきアンケート集計の報告があった。